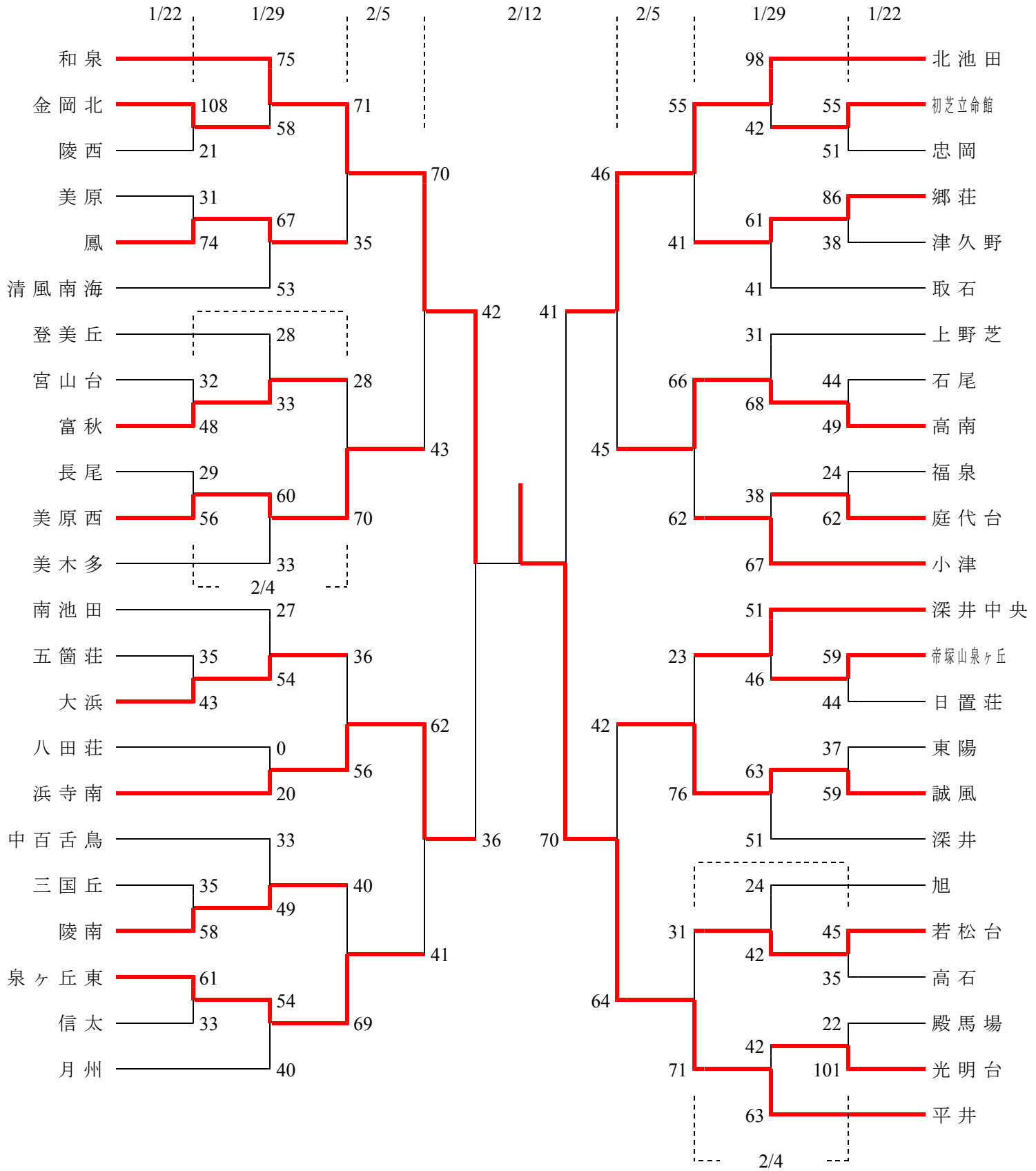


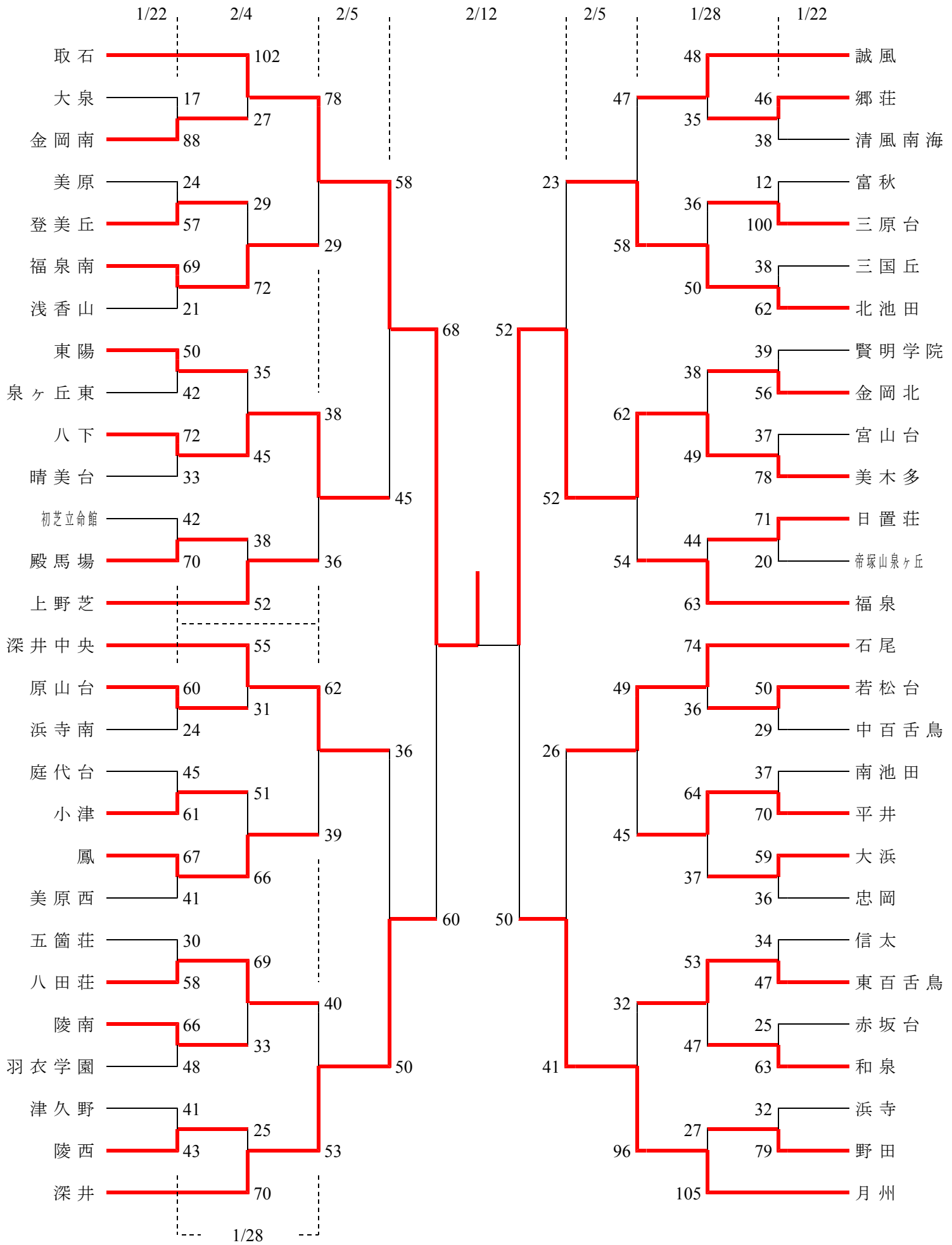
2011年度泉北地区新人大会

男子の部



決勝
 和泉 3 9 - 6 1 平井
 8 1Q 17
 12 2Q 17
 8 3Q 14
 11 4Q 13

女子の部



決勝

取石	6	3	-	2	2	美木多
	19	1Q		2		
	22	2Q		3		
	7	3Q		14		
	15	4Q		5		

決勝戦評

◎男子 和泉 39 - 61 平井

和泉は④⑤⑥⑦⑧でハーフマンツーマン、平井は④⑤⑥⑦⑧でオールマンツーマンでスタート。和泉は④を中心にドライブを狙うが、中をかためられ、思うようなオフenseができない。そんな中、⑦、⑧がリバウンドシュートを決め得点をするが、思うように得点が伸びない。一方、平井は⑤、⑧を中心にインサイド、アウトサイドからのシュートを決め、また⑦のリバウンドシュートで得点を重ねる。

第2Qに入り、和泉⑥の2連続3ポイントで流れが変わるように思われたが、平井は冷静さを保ち、安定したシュート力で流れを譲らない。そのような試合展開の中、和泉④がファウルトラブルに陥る。

後半に入ると和泉が3-2のゾーンや1-2-2のハーフのプレスを仕掛け、なんとか状況の打開を図る。しかし、平井もディフェンスをがんばり、前半の流れは変わらない。

最終Qでは和泉が1-2-2ゾーンのプレッシャーを強め、3ポイントシュートで逆転を狙うものの、平井は⑤を中心としたオフenseを機能させ、点差を縮めさせることを許さなかった。終始リバウンドを制し続けた平井が61-39で優勝をおさめた。

(岩橋、川橋)

◎女子 取石 63 - 22 美木多

取石は⑥⑧⑨⑩⑪⑫で2-2-1ゾーンプレス、美木多は④⑤⑥⑦⑬でマンツーマンでスタート。出だしから取石の2-2-1に対し美木多はボールを運ぶことができない。ハーフに入ってもパスミスが目立ち、美木多はリズムにのれない。一方、取石はディフェンスでインターセプトからのシュートを確実に決めていく。

第2Qでも取石がディフェンスから仕掛け、インターセプトからのシュートを決めていく。美木多はなかなかシュートまでもっていくことができず、ファウルも重なり、美木多本来の動きからは程遠い状態が続く。前半終了で41-5と取石が大きくリードする。

第3Qでは取石がメンバーチェンジしていく中、シュートの確率が低くなっていく。美木多は一矢を報いるべくシュートを決めていく。

第4Qは互いに疲れが見え始め、動きに精細を欠く。試合を終始リードし続けた取石が美木多を大きく引き離し、優勝を決めた。

(市原、亀井、安慶名)